



とちぎ ー210号ー PTA 新聞



- 令和7年度 栃木県PTA連合会 定期総会・会長挨拶
- 広報紙編集講習会 ペーパー版・Web版
- 第73回 日本PTA全国研究大会 石川大会
- とちぎのこと知ってる？4つの " 県のシンボル " ー県のシンボルが擬人化！？ しゃべるシンボル登場！！ー
～トチノキ・オオルリ編～



「県獣 カモシカ」





とちぎ



PTA

新聞



とちぎPTA新聞210号
栃木県PTA連合会
〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6
栃木県教育会館内
TEL 028 (622) 2833
FAX 028 (622) 2834

令和7年度 栃木県PTA連合会 定期総会



令和7年6月8日(日) 栃木県教育会館大ホールにて令和7年度定期総会が開催されました。
栃木県議会より副議長琴寄様、栃木県教育委員会より教育長中村様、栃木県小学校長会より会長口川様、栃木県中学校長会より会長小倉様のご臨席を賜りました。
県内の各学校より484名の代議員の皆さまのご出席のもと、5つの議案すべてにおいてご承認いただき、新たなスタートを致しました。

令和7年度新体制スタート

令和7年度スローガン

「すべては愛する子どもたちのために」

皆様方には本県PTA活動に多大なるご理解とご協力をいただいておりますこと心より厚く御礼申し上げます。
揚石前会長のスローガンである『子どもたちと同じ目線と受け継がせていただき、全ての保護者の皆様と共に、愛して止むことのない子どもたちの経験と成長の機会を学校と共に届け、時には助け導く、そして子どもたちの安心安全をしっかりと担保し守っていききたいと考えております。』
PTAは子育ての一環です。そして生活の延長線上にあります。仕事や家庭を犠牲にしてはいけないものです。できる時にやる、今回出られなかったら、次に出来る時に出る、それでまわる組織にしていかなければならないと考えております。環境や時代に合わせて変えなければいけないものの変えたいいけないもの、どちらも多くあると思います。しかしながら絶対に変わらないものは私はPTAの本質だと思っており、ます。学校のため保護者のためそして何よりも愛して止むことのない子どもたちのためであります。高校、大学ではなく義務教育の子どもたちだからこそ必要になるものが沢山あるものと思っております。
今年度、全ての皆様方と手を携え、共に歩んで参る所存でございますので、何卒ご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

新会長就任 あいさつ



栃木県PTA連合会
会長 福田 治久

趣味：スポーツと食
座右の銘：仁義礼智信

広報紙編集講習会

スーパー版

月 日 日 直

令和7年6月18日（水）にペーパー版の講習会を開催しました。今年度も講師に元トチベ編集長の菊池京子氏（鈴木印刷顧問）をお招きし、午前中は広報紙編集の基本・編集会議から配布まで・紙面の構成等をお話いただきました。取材や原稿作成の方法、見出しの書き方や編集のノウハウを細かく具体的に教えていただき大変勉強になりました。

午後には参加者が複数のグループに分かれワークショップを行い互いに持ち寄った広報紙を見せ合い、他校の工夫を学びました。また、菊池先生から広報紙の講評をうかがうことができ、大変有意義な時間になりました。

ご自身もPTA活動に携わった経験のある菊池先生は「PTAは、パット、楽しむ、あたし」とお話しください自分たちが楽しんで、PTA活動って楽しそうと思ってもらえるような広報紙を作成するようにとアドバイスをいただきました。



令和7年6月26日（木）にWeb版の講習会を宇都宮市立視聴覚ライブラリーのパソコン室で開催しました。今年度も講師に株式会社スキットより 川上真由美氏をお招きし

- ・ウェブで広報紙を発行することのメリット
- ・注意点
- ・個人情報の取り扱い等

のお話をいただいたあとに、実際にパソコンを使用してグラフィックデザインソフト「キャンバ」での実践的な編集操作方法を体験させていただきました。

講習を受けるまでは、ウェブでの編集には「高度な知識や技術が必要なのでは？」と懸念をしていましたが、講師の丁寧な指導もあり、実際に操作をしてみると、簡単に画像の加工や、編集をすることができ、とっても楽しくてあっという間の1時間30分でした。

なお、この『とちぎPTA新聞210号』は、今回の講習会で学んだ内容を実際に取り入れ「キャンバ」にて制作しました。まだまだ試行錯誤が必要ですが、親しみやすさを意識したデザインに挑戦できたのは大きな収穫でした。



WEB版

第73回 日本PTA全国研究大会 令和7年8月22日・23日



「サステナブルな未来づくりのために」

～創造と協働を 石川から～

石川大会は令和7年8月22日・23日の2日間にわたり石川県内6つの市で8つの分科会に分かれ1日目の分科会会場がそのまま2日目の全体会会場となる分散開催となりました。

第3分科会 「地域連携」

石川大会参加レポート01

金沢駅から在来線で約1時間で会場へ。令和6年元日の大地震と大雨。被災地と避難所のリアルなお話を、第一部輪島市教育長の小川先生より基調講演を拝聴。印象的な内容は、有事の際は、生徒・保護者・地域住民が一体となることの大切さを語っておられました。また生徒の「集団疎開」を、石川県と隣接市と協力し実施したことや避難所となる学校の覚悟など、あっという間の55分間で、涙なく聞くことはできませんでした。

第二部は5名が登壇しパネルディスカッション。基調講演の小川教育長はじめ、被災体験を持つ仙台・福島・七尾・熊本のPTA代表者が進行役とパネリストでした。

被災の経験を教訓に変え語っていかねばならないという信念の下、未来の子どもたちのために尽力した体験を、同じ親目線で拝聴できたのは貴重でした。中でも避難所で組織的に連携し機能したPTAの組織のお話には感動いたしました。避難所では自分自身も被災者であり、家族と自分を守る自助を果たすことが精いっぱいだが、県PTAや日本PTA、同じく被災体験を持つPTAからの支援には励まされたと皆さん仰っておりました。

総括として小川教育長は、孤立させずつながりを大切にするPTAの組織は、無くてはならない。地域防災の担い手は現役のPTA世代。「地球がやさしい街になる」これが地域連携の原点です。そう締めくくられました。

貴重な経験と学びに感謝いたします。

副会長 山本 和紀

第5分科会 「広報活動」

石川大会参加レポート02

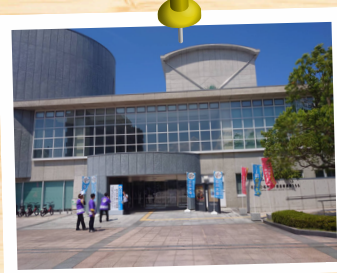
第73回日本PTA全国研究大会 石川大会の第5分科会「広報活動」が金沢歌劇座で行われました。当分科会は三部構成になっており第一部では的場茂樹先生（金沢大学准教授）が、自身の経験を活かし校長先生が地域やPTAとつながる姿勢を示すことで、保護者や地域の方々も思いを伝えやすくなると話され、信頼関係を築く努力の大切さを感じさせました。

第二部では阿部雄介さん（岐阜県P会長）が、役員を立候補制にした事例を紹介し、「やりたい人が楽しく活動することで、次の担い手も自然に生まれる」と語られました。また知人がくじ引きで会長になり末期ガンと知りながらも引き受けて任期半ばで亡くなってしまったというエピソードには胸が痛み、役員選出の方法についても考えさせられました。

第三部では大谷イビザさん（ウェブ編集長）が、LINEなど身近なツールを活用し、対面とオンラインをうまく組み合わせることで無理なく広報活動を進める工夫を紹介。「今しかできない活動を楽しむ気持ちが大切」との言葉が心に残りました。

一口に広報活動といっても、情報の発信、周知、伝達等、様々な目的がありそれぞれに合った方法で行わないと意味がないと言う事を気付かされました。

副会長 鈴木 哲也



第1分科会 團十郎芸術劇場うらら



第3分科会 開会式



第5分科会 スクリーン



第5分科会 会場内の様子

特別第2分科会 「今日的課題」

石川大会参加レポート03

令和7年8月22日から23日にかけて、第73回日本PTA全国研究大会 石川大会が開催された。初日である22日金曜日、石川県立音楽堂コンサートホールを会場とした特別第2分科会「学校教育における防災の学び ～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から得られた教訓をどう生かしていくか～」に参加した。

当分科会は文部科学省の協力により、基調講演と被災地での実践活動を交えたパネルディスカッションで構成されたものである。

我が国は、阪神淡路大震災から30年が経過したものの、昨年は能登半島地震により多くの尊い命と平穏な生活が奪われることとなった。その間においても東日本大震災や豪雨災害をはじめととして、様々な自然災害に見舞われている。自然災害は、大人だけでなく子どもも当事者となる。自然災害の多い我が国において必要なことは何か、それが防災教育である。私たち一人ひとりが自然災害についての正しい知識を持ち、事例を知ることが防災教育の第一歩となる。図らずも被災した地域では、学校を核とした地域復興、地域づくりが行われており、それは言い換えれば子どもたちを核とした地域づくりとなる。

子どもたちにおける防災教育は、災害時に自らを守ると共に自らの住む地域の実情を含めた数多くの事例を学ぶことによって、郷土愛を育むことが可能となるものであることを学んだ研修であった。

情報発信委員 佐藤 達也

とちぎのこと知ってる？「県の4つのシンボル」

けんぼく

◆ 県木 「トチノキ」 ってどんな木？



◆ 特徴 ◆ ムクロジ科の落葉高木（高さ20～30m）

手のひらを広げたような葉が特徴。秋には「トチの実」と呼ばれる実を結ぶ。絵本「モチモチの木」のモデルはトチノキと言われている。春になると白い花が咲きミツバチが蜜を集めにやってくる。トチノキから採れたハチミツは **とちみつ** と呼ばれる。

◆ 県のシンボル ◆ 環境緑化推進の象徴として1966年6月28日に制定。栃木県では奥日光や塩原温泉周辺の自然環境で群生が見られる。トチの実はトチ餅やトチ団子として加工され栃木県の伝統的な食文化に貢献。特に日光那須地方では郷土料理にその名残がみられる。

しゃべるシンボル登場！！ 「理屈より信念で導く」森の教育哲人



◆ 名前：大久保とちみつ

■ 性格：真面目で教育熱心。口調が重く説教くさいが、根は優しい。古風な価値観。

👄 口ぐせ：「教科書は枕ではないぞ。」
「成績よりも髭が伸びたわ。」
「授業中寝るのは武士の恥。」

💡 名言 & 😊 迷言集

💡 名言：「学びの根🌱は深く、知恵の枝🌿は広く。」
💬 注釈：しっかりと学ぶことで生き抜く力が大きくなる。

💡 名言：「答えより問いを持て。」
💬 注釈：問いが学びの根を深く伸ばす。問いが成長のカギ。

😊 迷言：「学びは時につらく、くるしいが、その先にとちみつ🍯はある。」
💬 注釈：努力は報われる的なことを言ってる。

😊 迷言：「彼は彼。我は我。カレーは辛え🌶️」
💬 注釈：人と自分を比べる必要はない。ただし、人生にスパイス（挑戦）を！

とちぎのこと知ってる？"県の4つのシンボル"

けんちょう



県鳥

「オオルリ」ってどんな鳥？



オス

特徴

ヒタキ科オオルリ属（全長約16cm）
日本三大鳴鳥の1つ（他：ウグイス、コマドリ）
日本へは夏鳥として渡来し冬季は東南アジアで越冬する。
オスは背中から尾まで鮮やかな瑠璃色、メスは茶褐色。
ピーリーー、ポィヒーリー、ピールリ、ジィジィと美しい
鳴き声。



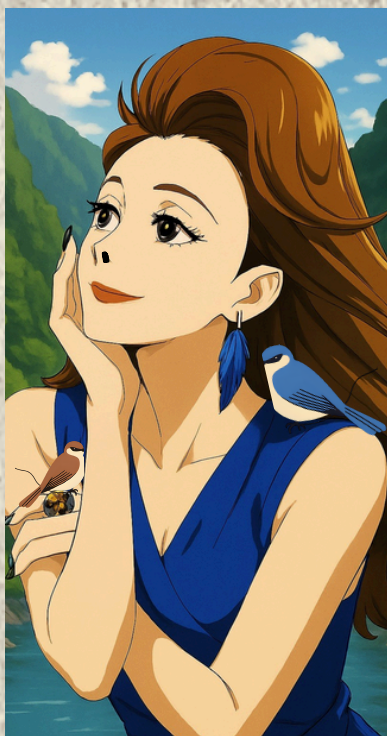
メス

県のシンボル

野生鳥獣保護の象徴として1964年1月17日に制定
瑠璃色の美と清らかな歌声が栃木の自然を象徴。
5月から10月頃まで日光や塩原や那須にすむ。

しゃべるシンボル登場！！

「母の感性で、心の声を聴く」共感する青い歌姫



◆名前：小 柳 ルリコ

♥性格：情熱と気品を併せ持つ、感受性豊かな「母性系アーティスト」。
3人の子を育て上げた肝っ玉かあちゃんでもある。

💬口ぐせ：「わたし、待つのは慣れてるの。」
「子どもを思って泣けるって、素敵じゃない？」
「子どもってさ、風に吹かれて歌ってるようなものよ。」

💡名言 & 😊迷言集

- 💡名言：「"わかってるつもり"が子どもを一番傷つけるのよね...」
- 💬注釈：親の経験や常識が子どもの気持ちの邪魔をすることへの気づき。
- 💡名言："ちゃんとしなきゃ"って誰が決めたの？子どもも、大人も、
もっと"ヘタでもいい"じゃない。
- 💬注釈：完璧を求めすぎる社会に対する優しいアンチテーゼ。

😊迷言：「うちの子、ランドセルよりママのメンタルのが重いって言ったわ。」

💬注釈：子どもを心配するあまりに母の気持ちが子どもの重荷に...

😊迷言：「"ママ大丈夫？"って聞かれた時点で、大丈夫じゃないのよ。」

💬注釈：子どもの察しが、母の強がり優しく打ち抜く瞬間。

P T A教育振興会から“P T A活動補償制度”のご案内

P T A活動って子供たちのためには大切よね でも、活動中に なにかあったら どうなるんだろう？  ①	そういえば こんなことが あったなあ...  ②	運動会のP T A競技で...  転倒して負傷してしまった ③
P T A奉仕活動で...   施設のガラスを 割ってしまった ④	P T A球技大会で... 車にボールをぶつけて 破損させてしまった  ⑤	
やっぱり保険は必要... でも高いよね...   ⑥	そうだ！ 栃木県P T A教育 振興会に相談だ！  ⑦	P T A活動補償制度に おまかせください！ 傷害保険 賠償責任保険  ⑧
それって どんな制度なの？  それはね...	 学校のP T A組織が 栃木県P T A連合会に 加入していれば、 一人当たり 100円で加入できる 魅力的な制度なんです	詳しくは 栃木県P T A連合会 HP内の P T A教育振興会 (P T A活動補償制度) のバナーを クリックして資料をご確認ください♪ こちらからも！  ⑨

栃木県P T A教育振興会は、困った時に皆様の心の支えになり、日々安全と安心をお届けできるよう歩み続けています

事務局 TEL 028-622-2839
FAX 028-622-2834
E-mail pkyou@tochigi-pta.gr.jp